

カルメル

霊性センターニュース



2017年2月

328号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	20
京都	24
名古屋	28
北陸	29
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

# 心の泉





## 第三卷

### 第三章 神のみ前に、謙虚に真実に生きなければならない

#### 2 子

「主よ、あなたのみことばは真実です。みことばのとおりになりますように。あなたの真理が私を教え、守り、救いまで導いてくれますように。あなたの真理がすべての欲から、私を解き放ってくれますように。そうすれば私は、あなたと共に自由に歩むことができるでしょう。」

#### 3 主

真理は言われる、「私はあなたに、何が正しく何が私に喜ばれるかを教えよう。あなたは、大きな悲しみと苦みとを味わいつつ、自分の犯した罪を思い出さない。そして自分がおこなった善を思って、ひとかどの人物であるかのように自負するな。あなたは、今も罪を犯すことができ、さまざまな邪欲にからめられているのである。あなたはつねに悪を望み、すぐ墮落し、たやすく敗れ、すぐ不安を感じ、落胆する人間である。あなたには、誇れるものが一つとしてない。ただ、恥辱とするべきものを多くもっているにすぎない。自分で思う以上に、あなたは弱い者である。」

#### 4 謙遜

だから、何をしても、大きなことを成し遂げたと思ってはならない。何事も重大な価値あるもの、感嘆し称賛すべきことだと思ってはならない。何よりもまず、永遠の真理を愛し、自分の低さと卑しさをいといなさい。何よりも悪と罪とを恐れ、さげすみ、避けなさい。悪と罪とは、あなたの財産のどの損害よりも嫌悪すべきものだと考えなさい。



## 呼ばれています

17-2月

### 「聖なるもの」になるように

いつくしみ深い父よ、

あなたはユスト高山右近を選びの器として、

キリストのために十字架の道をたどる者とされ

ました。わたしたちの弱さを力づけてください。

自分のいのちを神と人のために惜しみなくささげた人々にならない、わたしたちも生涯、あなたのいつくしみをあかすことができますように。\*

2月7日ユスト右近は福者に挙げられます。その生涯を通して教会に与えてくださった神の恵みを感謝するとき、現代のわたしたち一人ひとりもそれぞれの生活環境で、「聖なるもの」になるように呼ばれていることを思いおこしたいものです。「現代の最も偉大な聖人」と呼ばれているテレーズのささやきが聞こえてきます、

「『聖なるもの』となるとは、あれこれの徳を完全に実行することではありません。神さまのみ手のうちに自分を貧しく小さい者として、自分の弱さを知っておん父のいつくしみに大胆なまでに信頼する心構えのうちあるのです。」\*\* 1897年8・6

「どうして、十字架をになえば途中でくじけてしまうなどと恐れているのですか。イエス様も、カルワリオへの道すがら、3度も倒れられたではありませんか。・・彼にあやかって必要なら100度でも倒れ、そして倒れる前よりもさらに勇気をこめて立ち上がり、主に対する愛を証明したいと思いませんか。」

\*\* 手紙 1889年



伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『右近と歩む祈りの旅』日本カトリック司教協議会列聖推進委員会

\*\* 『弱さと神の慈しみ—テレーズとともに生きる』伊従信子編、サンパウロ

## 神の手

くのり 彰

年末年始、北海道の女子カルメル会に滞在した。雪はそれほど多くなく、日が出るとかなり溶け、地面が顔を出していた。ある日の午前、講話を終え、修道服を着たまま散歩に出かけた。戻って来た時、修道院の門の前、少し下り坂のアイスバーン状になった道路ですってんころりん、滑ってしまった。思わず、右手だけで体を支えてしまい、全体重が手首にかかってしまった。すぐに立ち上がったものの、痛みが全身を襲った。部屋に戻ってからも、しばらくは何もできなかった。

翌日、整形外科に行くと、立派な骨折（橈骨遠位端骨折）。全治 2 週間～4 週間とのこと。生まれて初めて右手から右ひじまでのギブスをはめることになった。その結果、利き手の右手が使えなくなった。お箸を握ることも、ペンを取ることも、ドアのノブをひねることもできない。洩も思うようにかめない。服を着るのも左手だけなので、ボタンをはめるのも一苦労、一大作業となる。毎朝、消防士のようにあつという間に修道服を身にまとっていたのが嘘のようであった。

正月早々、大災難とも言えるが、大変なお恵みの時とも言える。

普段、何気なしに沢山のことを右手が文句も言わずせっせせっせとやってくれていたこと、それがほとんど神業の域に達していたこと（一瞬のうち沢山の繊細なことをやり遂げる）に改めて気づかされた。これは、左手も同じことなのだが、それらの手の助けを借りて、毎日、沢山のいろいろな仕事をこなしていたことを考えると、この手は「人の手」に違いないが、間違いなく「神の手」なのだと悟らされた。

「神さま、助けてください」と私たちはよく祈る。何のことはない。神さまはいつでも、この手を通して、四六時中、私たちを助けてくださっていたのだ。私たちは、神さまの慈しみ、恵みのただ中にあるのだ。神に感謝！神に賛美！





## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (110)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 教えに関する啓示(2)

自分の生活様式や境遇をかえてばかりいて生涯を終わる人も、このようなものである。こういう人々は、霊的なことに関して、感覚的な熱意や楽しみを持っているだけで、自分の意志を抑えて、不自由に耐え、霊の潜心に至るよう力をつくすというようなことは決して行ったことがなかった。見たところ敬虔と思われる場所、自分の好みや傾きにじっくりするような生活や境遇を見るたびに、すぐに今まで持っていたものを捨てて、それに飛びついていく。彼らはあの感覚的な楽しみに動かされているのであるから、またまもなく他のものを探し求める。なぜなら感覚的な楽しみはいつもあるものではなく、すぐに消えてなくなるものだからである。(『カルメル山登攀』第3部42章2)

十字架のヨハネの最後の文章は、古代ローマの詩人オヴィディオが薄っぺらで変わりやすい幸福について言っていたことを私たちに思い起こさせます。彼は、それが薄っぺらさで変わりやすさの点でのみ変わらないと語っています。ギリシア人やローマ人がどんなに幸福の女神を思い描こうとも、また彼らが、アテネの一地区にあるフィディアスの有名な彫像のような像や神殿を女神にいくら捧げようとも、それは変わらないということです。

また修道召命だけでなく、どのような召命や召し出しにおいても起こり得る、召命に関わるこの種の試みを判断するために、聖テレジアの警告に耳を傾けることもできるでしょう。聖女は、現実的な考えに満たされていたので、人々がいろいろなものに騙され、空しい望みに生き、神に仕えるために身近なことからできることをするのではなく、できもしないことを望んでひとり満足していることのないよう警告しています(『靈魂の城』第7の住居4,14)。



## 年間第5主日 (A)

「あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなた方の立派な行いを見て、あなた方の天の父をあがめるようになるためである」(マタイ 5:16)

マイクはやんちゃな少年で、日曜のミサや学校に行くのをできるだけさぼろうとしていました。父親はとてもいい人でした。ある日、マイクが朝食を食べていると父親がかばんを持って入ってきて、マイクを抱いて「学校を楽しんでくるんだよ」と言いました。マイクは父親の仕事は9時始まりで、今はまだ7時45分であることを知っていました。「毎朝、なんでそんなに早く仕事に行くの。9時までに着けばいいんでしょう。10分で行けるのに」と尋ねました。すると父親は答えました。「マイク。私は出勤前に8時のミサに出ることにしているのさ」。マイクは父親のこの返事が心にしみました。これまで父親は週日のミサに出ているなどと一言も言わなかったのです。マイクは微笑んで「もしかしたら僕も毎日ミサに出るべきかもしれない。日曜のミサが違って見えるかもしれない」と言いました。

この話は、父親がイエスの教えを実行したやり方を教えます。マイクの父は言葉でなく行為によって息子に教えました。私たちの行為は香水にとっても似ています。香水をつけているとき、そのことを告げる必要はありません。話すとかえって魅力が失せます。行為も同じことです。人々に告げる必要はありません。話したら力を失います。

子供にキリスト教的生活をことばと模範によって教える親は、キリスト教信仰を拡げています。会社や工場で、正直さや仲間に対する愛徳、神と神に関することに尊敬を示すこと、またその話す内容でクリスチャンであることを示す労働者はキリスト教信仰を拡げています。困っている隣人を助ける人は真のキリストの弟子です。

味を失った塩、升の下に置かれた灯火と違い、このように行動する人はまわりを変えることができます。隣人の命を守る人になることができます。地上での命は短いものです。キリスト教的生活の求めるものは楽ではないかもしれませんが。しかしその求めに応じて生きる時、私たちはもう一人のキリストになるのです。キリストの大いなるわざを隣人に対するよい模範によって継続し、神に栄光を帰するのです。

(Beatrice)



## 年間第6主日

(マタイ 5:17-37)

何故人は「神の掟」を肯定的ではなく、否定的に考えがちなのでしょうか。神の掟に対するイエスの態度は、詩編119の素晴らしい祈りに要約できます：「わたしはあなたの律法をどれほど愛していることでしょうか。わたしは絶え間なくそれに心を砕いています。」

イエスは、神の掟の中心、すなわち神の律法と生き方は全うしなければならないと明確にしています。神の掟は真実であり正しいものです、神の掟は神の愛と善と聖性から流れ出るものだからです。私たちのための慈しみ、愛そして自由の掟です。そのためどのように愛するかを、何にもまして神を愛し、お互いのために命を投げうつことによって教えた神の息子、主イエスのなさり方に従うように命じています。

悪い望みや、人を傷つける望みが私たちを支配し、とりこにしないように、イエスは神の掟への崇敬を教えました。それは神ご自身への崇敬であり、主の日への崇敬、両親を敬うこと、命を大切にすること、財産や他人の名声への尊敬、自分自身や隣人への尊敬です。神の律法への崇敬や尊敬は、神への愛と隣人への愛の方法を教えています。人間には不可能なことが、信仰心のある人たちに寛大に贈り物や聖霊を与えて下さる神には可能です。

神は、神が愛するように私たちが愛し、赦すように赦し、考えるように考え、判断するように判断し、神が隣れみと親切心、善良さをもって行動するように行動するために、慈しみと助けと力を与えてくださいます。主は正義を愛し、邪悪を憎みます。主に従う者として、私たちは主の律法を愛し、あらゆる罪と悪い行いを憎まなければなりません。神が望むように正しく生きたいならば、神の律法の意向を知り、理解し、主に従うように心から決心しなければなりません。あなたは神の掟の意向を理解し、神のなさり方の知恵に成長しようと探し求めていますか？

イエスは弟子たちに、神の愛と真理の掟を私たちの心に書き記し、聖霊の贈りものを与えること約束されました。聖霊は神の真理を私たちに教え、神の道の知恵と理解を与えてくださいます。聖霊は私たちが弱いとき助け、誘惑のとき力を与え、日々キリストご自身に似るものに変えてくださいます。神の律法に従い、主を愛し、尊敬し、従うように他人、特に若い世代の人たちを助ける者を神は祝福し、報いてくださいます。あなたは神の愛を信じていますか、聖霊にああなたの生活のあらゆる場で聖なるもの、正義なことへの渇きに満たして頂いていますか？日々神の真理と善への知恵と知識に成長するように、あなたの心が神の言葉への燃えるような愛と崇敬で満たされるように求めなさい。

「主なるイエスよ、私たちの中に愛の新しい働きを始めてください。私たちの中にあなたの掟へのより大きな愛と尊敬を浸み込ませてください。聖であり正義である生活をするための燃える望みを与えてください。あなたを喜ばせるもの、あなたのみ旨に沿ったものだけを望むように私たちの考え、望み、意向を清めてください。」

(Sr. Paulina)

## 年間第7主日

(マタイ5：38-48)

今日の福音の中で、「目には目を、歯には歯を」・・・という聖書の言葉が出てきます。これは旧約聖書の出エジプト記、レビ記、申命記に出ている言葉です。もっともこれら旧約聖書の中だけでなく、ハンムラビ法典にも出てくる言葉としても有名でしょうか。

人にされたことを、その人にして良いという、報復の掟、法。この法によってある面、悪いことをさせないための抑止効果があつて、秩序が保たれていたのかも知れませんが、・・・とは言えこの掟を文字通り守るとき、負の連鎖を生んでゆくことにもなりますが、その連鎖を繰り返すのではない「新たな歩み」をイエスは人々に示して下さいました。

そして「隣人を愛し、敵を憎め」という、昔から命じられていることも具体的に挙げ、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」・・・と、山上から人々に諭します。このイエスの呼びかけ、新しい「新たな歩み」に人々は驚いたことでしょう。

復讐するのではなく、憎むのではなく、赦し、愛すること。それは私たち一人一人が天の父の子、神の子となるため。そのために目に見えない神の御独り子が、人となられ、私たちの救いのため十字架につけられ、死に、復活したのではなかったのでしょうか。

イエスは言われます。「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」・・・と。私たちは自分自身を他人と比較したがる様に思います。隣の人と比べ、同じだから問題ない、大丈夫。私の方が優れている・・・。そんな中で一喜一憂しながら、束の間の安堵に浸りながら過ごしている私たちかも知れませんね。

神の子となる様招かれ、洗礼によって神の子となった私たち。完全な者となるためにどうすれば良いでしょうか。慈しみ深い父なる神、目に見えない神は、その思い、心を、具体的に目に見える形で、イエスを通して私たちに示して下さいました。

イエスのみ跡に従って生き、イエスに倣って生きる様にと私たちは招かれています。イエスの思い、言葉、行いを知り、思い巡らし、愛に生きる「新たな歩み」へと今日も歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 年 間 第 八 主 日 (A) (マタイ6:24-34)

“二人の主人に仕える”“思い悩む”という状態の共通点を考えてみましょう。人間の内面が、その精神が分かれているという共通の問題点が見つかります。“anxiety “という言葉の語源は“二つの精神を持っている人の状態”です。このような人は行動が定まらず恐れや不安で行動を決めることが出来ません。恐れが高じると行動を阻み体に障害があるかようになります。それはまた全く異質の相反する国—光、真理、善に満ちた神の国と、暗闇、欺瞞、罪と悪に満ちたサタンの国—の両方に住みたいと思っている人のようです；神の導きによる生活を旨とするか、現世的な成功と刹那的な幸福を求める生活を旨とするか、決められない人のようです。

あなたにとって生活の全てを委ね従っている主人は誰ですか？人間の真の“主人“はその内的生活を導き、日々の生活の価値観を正しい方向に向けてくださる方です。しかし人間にはこの“真の主人”とは異なった多くのものに支配される弱さがあります—富、権力、名声、コントロールの難しい有害な欲望などです。究極的には主人として“神”か“マモン”のどちらかを選ぶことになるでしょう。マモンとは何ですか？“マモン”とは物質的な“富”や“財産”など人間的な欲求に加担する全てのもを表現しています。

人間の持っている弱さの全て、そこから出る悪い望みから解放して下さる、唯一人の主人、それは主イエスキリストです。この方だけが恐れや心配で縛られた人の心を解くことが出来る方です。イエスは大自然のなかで悠々と大らかに生き存在している空の鳥や野の花に目を注ぎ、天の父の配慮を賛美されます。こんなに小さなものにも心を配り守ってくださる天の父、ご自分に似た者として創造された人間への配慮、その思いはどれほどのものか、よく思い巡らすよう説得なさいます。わたしたちの父である神は本当に信頼に値する方、その本性は愛、癒し、赦しそのものです。

イエスは弟子たちにお教えになりました、信頼して天の父に祈ることを。“わたしたちの日ごとの糧 (bread) をお与えください。”糧は人間の生活に不可欠のもの、生き成長していくに必要なもの全てを象徴しています。不安は全く役に立たず不必要です。それは神の助けを願い神に信頼する心を削ぎ、善を行うエネルギーを吸い取ってしまいます。イエスはその従う人々に、不安と物質的な事物で心を満たすのを禁じ、何よりも先ず神の国とその義を求めるよう勧告なさいました。神は人間の必要を願う前から知っておられ、信頼し祈る者に寛大にお与えになる方です。

“主イエス、わたしたちを思い煩いから解放し、あなただけを信頼する心をお与え下さい。わたしたちの生活すべてが神の栄光とみ国のためとなりますように。日常の一日一日、その毎瞬を神への信頼と感謝のうちに過ごせますように、助けてください。”

(Sr. Paulina)



昨年末に報じられた日本国首相の真珠湾訪問は、その少し前の米国大統領の広島訪問とともに、私達にとって大きな出来事ではありました。

追悼施設「アリゾナメモリアル」で両首脳が並んで献花し、黙祷する映像をテレビニュースで目にし、また新聞紙上に掲載された両首脳の本州での演説文を心して読みながら、さまざまに去来する思いをかみしめました。

幼い子どもではありませんでしたが、私も戦争の経験者であり、子どもゆえに避けられないその影響を、人格形成の上で大きく受けていることを自覚しています。

戦後70年を含んで、この戦争で双方ともにどれほどの人がどれほどの苛酷な苦悩、痛みを、世代を継いで身に受けてきたかを思い、今、迫ってくる苦しさをあらためて感じています。

政治等々の面からは、種々の思い考えでの問題点もあるのかもしれませんが、ひとつの意思、行為として果たされたことは、やはり私たちの到達なのだと思います。

「異なるものを悪者扱いする考えに、立ち向かわなければならないのです」「戦い合った敵であっても敬意を表する 憎しみ合った敵であっても理解しようとする」「私たちを結びつけたのは寛容の心をもたらした和解の力です」「真珠の輝きに満ちたこの美しい入り江こそ、寛容とそして和解の象徴です」「両国が友人としてともに勝ち取ったすべてのことに感謝したいと思います」

両首脳の本説は、「寛容の心」と「和解の力」を高らかに説いています。 私はこの二つのことを黙想する思いをもって、両方の本説文を読みました。

寛容の心をもつこと、和解することは、何という困難なことでしょうか。 おそらく誰一人残さずすべての人が、深く深く思い知っていることなのだと思います。 国と国とのことだけでなく、私たち一人と一人のこととして、日常の小さなことの中にも思い至ることあるのです。 70年もの年月を要するようなことはないとしても、それでも長い年月を一人で苦しむことはあります。 受けた痛手を、相手を咎めることなく受け入れることはできないのです。 私たちは身に被った自らの深い痛み悲しみを、自らの怒り敵意をもって懸命に庇うのだと思います。 そうしないと生きられない気がするのです。 しかし、その怒り、敵意もまた自らを苛むのです。 あえて言えば怒りは或る防禦であり、自分自身の真実ではないからです。 私の真実とは赤裸の悲しみ、惨めさである筈です。

ゆるすことは愛することと同じと思っています。

愛することの定義のひとつは死ぬことと思っています。

ほんとうにゆるす心をもつのなら、相手ではなく自分自身をかえりみるしかないのでしょうか。ほんとうにゆるすというのなら、たとえ自分が正しいとしても、正しさを主張することはできません。正義を使うことはできません。正義を超える自分自身を自分の内に誕生させるしかないのです。ゆるせない自分、ゆるさない自分を脱け出すこと、昆虫のように脱皮するしかないのだと思います。自分の根源の惨めさに立ち行き、自分の根源の弱さを全身で確かめ、自己中心だろうが優越意志だろうが権力意志だろうが、たとえ私たちになくてもならないものであったとしても、それ等すべてを砕かれて丸裸の惨めさ、悲しさだけになって、神さまに身を投げることで、そうして神さまのあわれみの大波に覆われて、ゆるされてある自分に目覚めて、はじめてほんとうに相手に目を向け、手を差し出すことができるのかもしれませんが。誰もが思い知っているように寛容の心をもつこと、和解することは決して無傷ではできないのです。私のために死んでくださった十字架のキリストを仰いで、その愛を全身に浴びるしかすべはないのだと、私の魂は深く知っています。

また他方、私たちはこの日常を生きるさ中であって、敵意、憎しみを少しずつ薄れさせてゆくこともあります。忘れ去るというよりは、断念するというのでしょうか。断念しついつい痛手をも遠いものとするのでしょうか。これもまた脱皮といえるのかもしれません。いずれにしても和解とは、結局は自分自身との和解なのではないでしょうか。

ずいぶん昔となりましたが、当誌への一番最初の寄稿が「ゆるすということ」でした。神戸児童連続殺傷事件の幼い被害者の母である山下京子さんの手記を取り上げました。その後も光市母子殺害事件で妻子を亡くした若い父親に、必死に思いを寄せる等々、折にふれゆるすということについて、多くのことを思い考えしながら書き記してきていますが、「ゆるす心」は私にとって苦しく抱えもつ大切なテーマであり、それは常に十字架のキリストに重なって心の底へ底へと深まり続けているのです。

今年元旦の新聞紙上に、皇后美智子さまがフィリピンを訪問された時の御歌が発表されました。深く心にとめました。

「許し得ぬを許せし人の名と共に　モンテンルパを心に刻む」



# いのちの言葉 2月

わたしはお前たちに新しい心を与え、  
お前たちの中にあたらしい霊を置く

(エゼキエル36. 26)

今月のみ言葉にある「心」という言葉は私たちに愛情や感情、情熱を思い出させます。でも、これを書いた預言者エゼキエルにとっては、それ以上に深い意味がありました。

彼にとって、「心」は、人間とその生命<sup>いのち</sup>の中心であり、また、霊的生活と決心の場でもありました。

聖書に「肉の心」と「石の心」という言葉があります。「肉の心」がある時、人は神のみ言葉に従い、み言葉に導かれるので、その人のうちには兄弟姉妹に対する「平和な思い」が育まれます。

逆に、「石の心」がある時、人は、自分の殻の中に閉じこもり、他の人に耳を傾けることも、相手をいつくしむことも出来なくなります。

では、私たちにも「新しい心」と「新しい霊」が必要でしょうか？

周りを見るなら即座に答えが見つかるでしょう。

「石の心」から生まれるのは暴力、不正、争いであり、被造物の上にある神のご計画に心が閉ざされてしまいます。

私たちも自分を見つめ直してみると、自分のエゴに思い当たらないでしょうか。「本当に愛に導かれて決めたのでしょうか？ 本当に相手の善のためだったでしょうか？」と。

神様は、私たち人類社会の悲惨な状況をご覧になられ、憐れみの念を抱かれます。私たちのことを私たち以上によくご存知だからです。

「新しい心」が私たちに必要だと知っておられ、預言者エゼキエルだけではなく、神の民全体に「新しい心」と「新しい霊」を与えると約束して下さいました。

その初めから、神様は、すべての民が相互愛によって大きなひとつの家族となることを夢みておられました。

しかしながら、私たちは歴史を通して、人間の力ではとうてい神のご計画を全うできないことを目にしてきました。

他方、神様は、どのようなときにも私たち人類を助けてくださり、「新しい心」と「新しい霊」を私たちに与えると約束して下さったのです。

神様は、御子イエスをこの地上にお与えになり、聖霊降臨によって聖霊の息吹で満たし、その約束を完全に果たされました。

こうして、エルサレムに最初のキリスト者共同体が誕生しました。この共同体の特徴はまさに「心と思いをひとつにする」<sup>1</sup>共同体でした。これこそ、あらゆる人類社会の模範となるものでした。

今月のみ言葉を書いている私も、そして、今それを読んで下さっているあなた

も、みんながこの新しい人類社会の一員となるように招かれているのです。

それだけではありません。自分が住んでいる地域や、職場、周りの社会にこのような新しい人類社会をもたらしていくように私たちは呼ばれています。

いかに大きな使命が私たちの上に委ねられているのでしょうか。そして、神様が、どれほどの信頼を私たちの上に置いて下さっているか考えてみて下さい。

腐敗した社会に落胆したり、巨大な悪の前で絶望したり、あるいは、無関心になったりするのではなく、「イエスの心の尺度にまで心を広げてみましょう。それはどれほど大変なことか分かります！ でも、今唯一必要とされることだと言えます。それをすれば、全て行ったこととなります」と、キアラ・ルービックは語ります。

そして、さらに続けて「自分の傍にいる人を、神がその人を愛されるように、私たちも愛しましょう。私たちは時の中に生きていますから、一瞬前に出会った兄弟姉妹への愛着を引きずることなく、毎瞬間に出会う隣人、一人ひとりを楽しみましょう」<sup>2</sup>と。

神様が「わたしは新しい心を与え、あたらしい霊を置く」と私たちに約束して下さったのですから、自分の力や能力にだけ頼るのではなく、神様の贈り物に信頼して歩いていきましょう。

一人ひとりを楽しませいという招きを心から受け入れ、心の中の聖霊の声に導かれるなら、多民族、多文化の間で、私たちも新しい人類社会の一つの細胞となれるでしょう。そして、新しい世界に向けて貢献していかれるでしょう。

ファビオ・チャルディ神父

今年が宗教改革 500 年を記念する年にあたり、ドイツのエキュメニカルなグループによって、今月のみ言葉が選ばれました。この特別な一年、諸キリスト教会に属する多くの兄弟姉妹とともに神様の約束に伴われながらこのみ言葉を生きてまいりましょう。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### いのちの言葉の集い

関東 2月12日(日) 13:30 ~ カトリック藤沢教会(神奈川) 204号室  
(週日に吉祥寺・鷺沼・戸塚・厚木・千葉・浦和・鹿沼でも)

関西 2月12日(日) 13:00 ~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや  
早春ウォーキング 2月25日(土) 10:30~ 神代植物公園他

▶詳細は各フオコラーレセンターまで。

連絡先: フオコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com)

ホームページ: [conil157chl.wix.com/focolare-jp](http://conil157chl.wix.com/focolare-jp)

<sup>1</sup> 使徒言行録 4.32

<sup>2</sup> キアラ・ルービック著「La dottrina spirituale (霊的教義)」Città Nuova 社  
2002年P135参照

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

2017年01月13日

### シリアの北部激戦地 アレッポの女子跣足カルメル会修道院からの手紙

昨年12月21日にローマの総長館は、シリアの北部激戦地アレッポの女子カルメル会修道院からカルメル会総長へ宛てた手紙を受け取り、大変喜びました。そして、同月27日にソーシャルネットワークを通じて、フランス語とスペイン語で手紙の全文を公表いたしました。

その手紙の中で、シスターたちは、支援の手を差し伸べてくれた兄弟姉妹に対し、特に彼らの祈りに対し、心から感謝しています。というのも、その祈りによって、現在置かれている過酷な状況の真っ只中で、自分たちが支えられていると強く感じていたからです。アレッポに無惨な被害をもたらした戦争のただ中で、小さな祈りや励ましの言葉が、シスターたちの共同体生活を充実させる助けとなっていたと知って、感動しています。小さな祈りや励ましの言葉の中に、シスターたちは、私たちとの親しい交わりや愛を強く感じていたのです。

苦しんでいる人々に結ばれながら、——彼らのために、シスターたちは、絶えず祈りによって、また苦しみを分かち合いながら、神に取り次いでいたのですが——、またあらゆる困難を乗り越えながら、兄弟愛の生活を続けています。カルメルのシスターたちは、コールス（歌隊所）にレバノンのハリッサ女子カルメル会から贈られてきた、カルメル山の聖母の新しいイコンを設置しました。これは、司教から派遣された“人となられた御言葉会”の司祭によって祝別されました。シスターたちは、教会や修道会とともに、福者三位一体のエリザベトの列聖式とマリー・ユジェーヌ神父の列福式の喜びにあずかることができました。また年の黙想会にも参加し、昨年11月13日と14日には修道院長の誕生日をお祝いすることもできました。

手紙では、市内の東部と西部では大変な違いが見られますが、シスターたちも、長期間にわたり苦しめられた人々とともに、市の解放よってもたらされた喜びを分かち合っています。この手紙を書いているときに、廢墟の中でも、クリスマスを祝うために市の西部を飾りつけている人々の喜びの歌声やダンスが聞こえてくるかのようです。しかしながら、東部の状況は、冬の厳しさに直面し、大変な困難の中で、かなり痛ましい状態にあります。たとえ市が再建されたとしても、紛争で深く傷つけられた人々の心の傷口は、長い間、開いたままのことでしょう。

どうか平和の主が彼らを癒してくださいますように。

私たちが祈りの内に彼らと一つとなるよう、シスターたちが祈ってくれますように。

## 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

13//01//2017

### **New Discalced Carmelite Bishop**



On 20th December, 2016, Pope Francis appointed as Bishop of the Lismore diocese, in Australia, our brother Fr Gregory Homeming who, since 2014, has been Regional Vicar of that area of jurisdiction, which is dependent on the Anglo-Irish province. Fr Greg, as he is familiarly known amongst us, also fulfilled this office from 1998 to 2002 and from 2005 to 2011.

Born in 1957, he made his profession on 1st February 1987 and was ordained priest on 20th July 1991. He has a degree in Economics and Law from the University of Sydney and completed his theological studies in the Catholic University of Melbourne.

May the Lord bless him and accompany him in this mission to which he has been called in God's Church. It is absolutely certain that he will not lack the prayers of his Teresian Carmelite family.



## 糸巻き棒からペンへ(17)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



### エドゥアルド・サンス OCD

同じ頃、王室書記官のミゲル・ペレス・デ・ラナヴァスは、自分の妻が誰かと浮気していると考えていました。その疑いを裏づけるものは何も見出せませんでした。不名誉を避けるため彼女を殺す決心をしました。彼は、彼女が直ちに天国へ行くことを保証してくれる聖木曜日に告解することを望んでいました。その日、彼は自分の家で、卑劣なガロテ\*で妻を処刑しました。同じようなことを、カルデロン・デ・ラバルカの『名誉の医者』の中に見ることができます。不当にも妻に疑いを抱く主人公は、彼女の血を死ぬまで抜き取るよう、医者に強います。妻たちを殺したことに對し、だれも夫たちに説明を求めませんでした。結局のところ、夫は妻の所有者であり、所有物をどうすべきかを決定できたのです。

\*ガロテとは、スペインで行われていた処刑法で、首を固定する鉄輪の後ろに穴があり、そこからねじで千枚通しのようなものが頸部に差し込まれる。

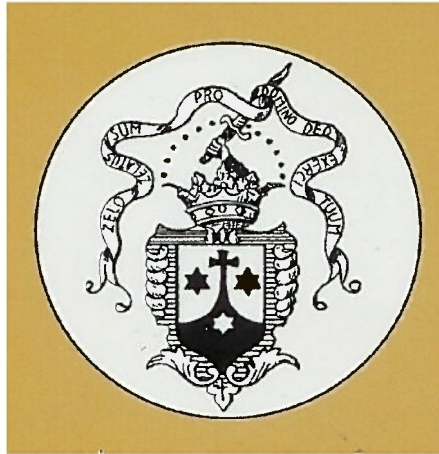
テレジア自身、アルバ・デ・トルメス修道院の創立者（訳注：テレジア・デ・ライス）の歴史について語っています。それによれば、創立者は生まれた時、ほとんど死ぬ寸前であったということです。というのは、彼女は両親にも家族の者にも見捨てられ、食べ物も与えられず、その他の世話もまったくなされていなかったからです。その理由はただ生まれた子が女の子だったからです。そしてこう付け加えています。「テレジア・デ・ライスが生まれた時には、ご両親にはすでに4人のお嬢さまがいたので、また女の子かとひどくがっかりなされたのです。何と情けない話でしょう。人間は神のお考えをはかり知ることができないので、自分には何が一番良いか分からず、娘がどれほどの幸福の元となり、息子がどれほどの不幸の元になりうるかということを知りません。そして、すべてをご存じの万物の創り主におまかせしようとする様子もなく、かえって喜ぶべきことを死なんばかりに悲しんだりしています」（『創立史』20, 3）。

男性に支配された世界の中で、テレジアは、女性が学習し、自分ひとりで決定できる権利を擁護しました。女性が男性から自立し、自己管理できる空間を生み出そうとしました。彼女は、女性も男性と同じ能力を持っていると確信し、養成がなされるならば、その能力を十二分に発達させることができると知っていました。それゆえ、修道女たちに書物や教養に親しむよう強く主張しました。

（続く）



# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

# カルメル会

## 四旬節講話シリーズ

### 三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

日時： 3月5日（日）： 片山 はるひ氏（ノートルダム・ド・ヴィ）  
「エリザベトと共に生きる —永遠の光のもとで— 」

3月12日（日）： 大瀬 高司神父（カルメル会司祭）  
「続・歴史の中の三位一体のエリザベト」

3月19日（日）： 九里 彰一神父（カルメル会司祭）  
「三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘」

3月26日（日）： Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）  
「三位一体のエリザベトによる『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

4月2日（日）： 松田 浩一神父（カルメル会司祭）  
「父と子と聖霊の唯一の神を信じる —三位一体のエリザベトと共に— 」

上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）  
〈カルメル修道会主催〉

場所：カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会（[TEL:03-3704-2171](tel:03-3704-2171)）

carole toujours, elle est  
elle est pour ainsi tout  
dans la gloire et l'amour.  
dans la gloire et la joie de  
son Dieu. Dans le ciel et  
son Dieu. Dans la gloire et  
notre âme sera toujours  
glorie de la St. Trinité. Je  
d'amour et notre Dieu. Je  
suis, un jour la nuit  
ta, nous serons unis et  
dans les jours et la  
nous serons unis et la  
amour est en Dieu nous  
nous serons unis et la  
un amour et la gloire de  
un amour et la gloire de



PRIÈRE DE SŒUR ÉLISABETH DE LA TRINITÉ

M. M. + J. E.  
O mon Dieu Trinité que j'adore  
aidez moi à m'oublier entièrement  
pour m'établir en Dieu immuable  
et paisible comme si déjà mon  
âme était dans l'éternité que  
rien ne puisse troubler ma paix, ne  
me faire sortir de vous O mon Dieu  
que chaque minute m'imm  
lève dans la profondeur  
de votre Trinité. Pacifiez mon âme.  
O mon Dieu Trinité que j'adore  
aidez moi à m'oublier entièrement  
pour m'établir en Dieu immuable  
et paisible comme si déjà mon  
âme était dans l'éternité que  
rien ne puisse troubler ma paix, ne  
me faire sortir de vous O mon Dieu  
que chaque minute m'imm  
lève dans la profondeur  
de votre Trinité. Pacifiez mon âme.

# 神はわたしのうちに わたしは神のうちに

三位一体のエリザベットとともに生きる

伊 従 信 子

ISBN978-4-88216-264-3 C0116

定価540円(税込) 197頁

【聖母文庫】 217



ご注文  
承り中

「わたしの一生に太陽の光がさんと注いでいたのは、『心の深みに住まわれる神』と親しくしていたからでした。」

2016年10月16日に列聖された三位一体のエリザベットの26年間の生涯とその熱い信仰に迫る一冊です。



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 TEL.095-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

# 上野毛霊性センター 2017年4月～2018年3月

## 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院(黙想)\*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
2017年 4月13日(木)夕食～16日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

### 2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

4/6 (木)、4/28 (金)、5/12 (金)、5/25 (木)、6/15 (木)、  
6/30 (金)、7/7 (金)、7/20 (木)、9/21 (木)、10/27 (金)  
11/10 (金)、11/30 (木)、12/7 (木)、12/22 (金)、

2018年

1/11 (木)、1/26 (金)、2/8 (木)、2/23 (金)、3/8 (木)、3/23 (金)

\*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

### 3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

8月 1日 (火) 17時～	8月10日 (木) 朝	福田正範神父
8月16日 (水) 17時～	8月25日 (金) 朝	福田正範神父
12月27日 (水) 17時～	2018年1月5日 (金) 朝	福田正範神父

### 4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日 (火) 17時～	10月19日 (木) 朝	福田正範神父
-----------------	--------------	--------

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2017年

4月22日(土) 16時～23日(日) 16時

カルメル会士

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時

カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時

カルメル会士

7. 四旬節黙想会(テーマ:ゆるしの喜び)

2017年

3月18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

福田正範神父

8. 特別黙想会 S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時

- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムスは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

**場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)**

**指導：福田正範神父**

\*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	2017年	2月	9日(木)	午後1時30分～午後4時
			2月24日(金)	〃
			3月9日(木)	〃
			3月24日(金)	〃
			4月6日(木)	〃
			4月28日(金)	〃



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

# 四旬節黙想会

日時： 2017年3月18日(土) 18:00~20日(月) 15:00

指導： 福田正範神父

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費： ¥12,000



お問合せ、お申込み：TEL. 03-5706-7355 FAX03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

## 2017年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

1月7日(土)～8日(日)	真の幸いへの道	中川博道神父
7月15日(土)～16日(日)	ロサリオの道：キリスト者の歩み	中川博道神父 (仮)
10月7日(土)～8日(日)	テレーズと共に生きる	中川博道神父 (仮)

### 【聖書深読黙想会】 1日(午前10時～午後4時)

1月14日(土)	7月1日(土)	中川博道神父
3月11日(土)	9月23日(土)	中川博道神父
5月27日(土)	11月25日(土)	中川博道神父 (仮)

### 【水曜黙想】 (午前10時～午後4時)

1月18日(水)	社会の中でキリストに従う (1)	松田浩一神父
2月22日(水)	社会の中でキリストに従う (2)	松田浩一神父
3月15日(水)	家族の保護者聖ヨセフに習う	Sr.ロサ
4月19日(水)	復活したイエスをさがす教会	中川博道神父 (仮)
5月17日(水)	ファティマの聖母	松田浩一神父 (仮)
6月7日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (1)	松田浩一神父 (仮)
7月5日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (2)	松田浩一神父 (仮)
9月6日(水)	嵐の中で試される信仰	Sr.ロサ
10月18日(水)	聖なるミサ 聖祭と聖母マリア	松田浩一神父 (仮)
11月29日(水)	「ラウダート・シ」を生きる	中川博道神父 (仮)
12月13日(水)	十字架の聖ヨハネの新しい人間	松田浩一神父 (仮)

### 【聖テレーズの黙想】 (午後5時～午後4時)

9月30日(土)～10月1日(日)	テレーズ帰天 120周年	松田浩一神父 (仮)
-------------------	--------------	------------

### 【キリスト教霊的同伴】 午後8時～午後3時まで、(金)夕食なし

1月27日(金)～28日(土)	7月7日(金)～8日(土)	松田浩一神父
2月24日(金)～25日(土)	9月1日(金)～2日(土)	松田浩一神父
3月17日(金)～18日(土)	10月20日(金)～21日(土)	松田浩一神父
4月7日(金)～8日(土)	11月24日(金)～25日(土)	松田浩一神父
6月2日(金)～3日(土)	12月15日(金)～16日(土)	松田浩一神父

### 【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月18日(土)～19日(日)	真に生きる道を探して	中川博道神父
-----------------	------------	--------

### 【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月2日(土)～3日(日)	神の秘められた計画	松田浩一神父 (仮)
----------------	-----------	------------

【カルメル青年の集い】(午前 10 時～午後 4 時)

6 月 4 日(日) キリストの過越しの実り 聖霊降臨 松田浩一神父 (仮)  
11 月 23 日(木) キリスト者の聖性の道 松田浩一神父 (仮)

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】(午後 5 時～午後 4 時)

2 月 10 日(金)～11 日(土) カトリック教会の教えとイエスの聖テレジアの霊性 松田浩一神父  
5 月 2 日(火)～5 日(金) カトリック教会の教えとカルメル観想生活 松田浩一神父 (仮)  
10 月 14 日(土)～16 日(月) イエスの聖テレジアの「自叙伝」(2) 松田浩一神父 (仮)  
12 月 13 日(水)～14 日(木) 十字架の聖ヨハネの新しい人間 (2) 松田浩一神父 (仮)

【奉獻生活者の黙想】(午後 5 時～午前 9 時)

8 月 7 日(月)～16 日(水) 中川博道神父 (仮)  
8 月 18 日(金)～27 日(土) 松田浩一神父 (仮)  
11 月 7 日(火)～16 日(木) 中川博道神父 (仮)  
12 月 27 日(水)～1 月 5 日(金) 松田浩一神父 (仮)

【English Retreat】(10am to 4pm)

3 月 4 日(土) Cross is the hope for our life. Sr.Rosa  
6 月 10 日(土) A day with St.Therese Sr.Rosa  
11 月 18 日(土) A pilgrimage to Jerusalem with Magi Sr.Rosa

【祭日のミサに参加するために】

<聖週間を祈る> (講話なし、各食事付き)

4 月 13 日(木)～4 月 16 日(日) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11 時  
(聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。)

<クリスマス> (講話なし、各食事付き)

12 月 24 日(日)～12 月 25 日(月) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11:30

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前 9 時～午後 5 時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、**キリスト者の霊的・心的修養を目的として、外的・内的沈黙のうちに**行われる**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(**霊的理解**)を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴(一人 30分)**を行います。
- メソッドの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- **キリスト者としてのパーソナルな統合**はキリストのうちに**行われる**ものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。そのため、修道院的沈黙のひと時となります。

【参加者人数】 **6名**

【開催日】 2017年 1月27日(金)～28日(土)  
2月24日(金)～25日(土)  
3月17日(金)～18日(土)  
4月 7日(金)～ 8日(土)  
6月 2日(金)～ 3日(土)  
7月 7日(金)～ 8日(土)  
9月 1日(金)～ 2日(土)  
10月20日(金)～21日(土)  
11月24日(金)～25日(土)  
12月15日(金)～16日(土)  
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ **FAX、はがき、Eメール**で申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
**E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)**



# 宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行  
上前津（カミマエヅ）支店  
普通口座：7205805  
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行  
記号：10040  
口座番号：56845391  
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部  
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17  
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

# 《2017年 名古屋一日静修》

## 三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

1. 日時、講師及びテーマ：以下の日、午前10時～午後4時

- 1月21日(土) 九里彰神父 「神は私の内に 私は神の内に」  
3月20日(月) 古川利雅神父 「いのちの泉であるお方とともに」  
5月20日(土) 須沢かおり氏 「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」  
7月17日(月) 松田浩一神父 「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる  
—三位一体のエリザベトと共に—」  
9月23日(土) 片山はるひ氏 「エリザベトと共に生きる —永遠の光の も  
とで—」  
11月25日(土) Sr. ポーリン・フェルナンデス 「三位一体のエリザベト  
による『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

2. 場所： カトリック日比野教会 信徒会館  
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)

2. 参加費：1000円

3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

4. プログラム

- 10:00 導入の祈り (聖堂)  
10:20 第一講話 (信徒会館)  
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接  
12:00 昼食 (信徒会館)  
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接  
13:00 第二講話  
14:00 念祷  
14:30 ミサ (聖堂)  
15:30 茶話会 (信徒会館)  
16:00 終了の祈り

5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申し込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

-mail / seisyuu\_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

#### 2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

# 真命山

祈りの集い

年間のテーマ

## 山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時?15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5:7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5:4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5:5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5:6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5:7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5:8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11:27? 28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20:29)

指導者 ロック 神父

? 個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町鯖浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度:倫理と霊性の基礎づけⅡ近代・現代  
冬学期:10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5  
11/12, 11/26, 12/3, 12/17  
2017/1/7, 1/14, 1/21, 1/28

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。  
8月23日は、上智大学内 Kulturl-Haus 2F 聖堂。  
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。  
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切は、初日の8日前。  
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。  
2016年  
10月1日、11月12日、12月3日  
2017年  
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分  
上智大学内 Kulturl-Haus 1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分  
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。  
事前申込み要。  
[関西]  
宝塚黙想の家。事前の申込み要。  
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。  
2017年1月29日(日)。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る  
 11/11 信仰の決断— 支えられて生きる  
 11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧  
 11/19-20 ●黙想会(上石神井)  
 11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範  
 12/2 人間の弱さ— 罪とは何か  
 12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける  
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30  
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
 12/16 愛の心— キリスト教の本質  
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内ク  
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)  
 12/25 ●クリスマス黙想(18時50分-20時10  
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)  
 1/6 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う  
 1/13 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む  
 1/20 霊の動き— 福音による生き方  
 1/27 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰  
 2/3 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想  
 の仕方  
 2/10 結婚と独身— 愛の道  
 2/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている  
 2/18-19●黙想会(上石神井)  
 2/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄  
 与して働く  
 3/3 人間の苦悩— 悪とは何のためか  
 3/10 死— その受け入れと克服  
 3/17 人生の完成— 神の内に生きる  
 3/24 聖母マリア— 信じる者の原型  
 3/31 限りのない救い— 匿名のキリスト  
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク  
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座 2016-17年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [聖霊]  
 12/6 神の内的現存— 人間における聖霊の働き  
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分  
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
 12/20 三位一体の神— 救いの構造から神内  
 の存在へ  
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、クルトゥルハイム2  
 階聖堂、定員80人)  
 12/25 ◆クリスマス黙想(18時50分-20時10  
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)  
 [教会]  
 1/17 信仰者の共同体— 教会の本質  
 1/31 救いのしるしと実現— 秘跡の意味  
 2/18-19 ●黙想会(上石神井)  
 2/21 「聖徒の交わり」— 世界の只中のクリ  
 スト  
 3/7 人間と世界の究極の未来— 終末の  
 約束  
 3/21 信仰者の原型— 聖書に見られるイエ  
 スの母  
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク  
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

## 講話と祈りの集い

\*上石神井\*

2月25日（土）午後2時～午後5時30分

担当：片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費 200円

テキストはありません。



\*\*\*\*\*

### 特別祈りの集い

～福者幼きイエスのマリー＝ユージェーヌ神父と共に～

日時：3月20日（月・祝日）午前 10：30～午後 4：30 頃まで

場所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

プログラム：講話・祈り・質問 ※テキストはこちらで用意いたします。

定員：50名 先着順（要申込み）

講話：片山はるひ

参加費：500円（昼食代を含む）

午前のみ・午後のみ参加の方は 200円

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。必ずお申込み下さい。

※昼食は軽食をこちらでご用意致します。



### お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願いします。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
フォロー アップ	2/26(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	くろま 来間裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
サダナⅡ	3/16(木) 9:30- 3/20(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
入門A	4/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	駒場ザビエルハウス (目黒区駒場)	同上
那須リピー ターの会	4/28(金)17:30- 4/30(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	同上
入門B	5/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/20(土)9:30- 21(日)17:00 5/27(土)9:30- 5/28(日)17:00	Fr植栗	エスコラピアス修道女 会修道院 (世田谷区弦巻)	同上
沖縄 サダナⅠ	6/1((木)17:30- 6/4(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
沖縄 フォローアップ	6/5(月) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナⅠ (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師（サゾウ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）



# 神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 神のいつくしみを生きる

—罪と恵み—

2016年度 第3回 青年黙想会

日時： 2月18日 (土) 15:00 ~

19日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年2月12日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

### 【2016年予定】

—12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌— 終了

### 【2017年予定】

—1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌— 終了  
3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌  
5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌  
7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌  
9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌  
11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌  
12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



### <<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

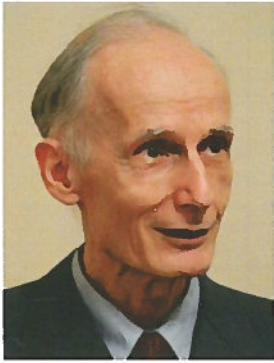
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

紀元前 5 世紀、アテナイの青年貴族プラトンは、老ソクラテスに出会い、前途洋々たる政治家の道を捨て、知恵を愛する者（フィロソフォス；哲学者）となる。師ソクラテスを処刑する衆愚政治を目の当たりにした彼は、理想の政治を夢見、シラクサでそれを実践しようとする。それは、為政者が真の賢人となり、その知恵によって国を統治する、いわゆる哲人（賢人）政治であった。しかし、王の怒りを買って、奴隷として売り飛ばされる。奴隷となった彼は、運よくアテネの友人によって買い戻される。（真偽のほどは確かでないが、その代金を恩人に返そうとしたところ、受け取らなかったため、そのお金を基に、西洋文化の礎となる、一千年余も続くアカデメイアが創立されたということである。）

東洋でも政治とは、「経世済民」（世を治め、民の苦しみを救うこと）だと言う。政治の根本に、人間や世界に対する深い洞察、単なる人間の地平を超える宗教的哲学的洞察が欠ける時、軍事力経済力政治力など、権謀術数にあけくれる、力と力の争いが繰り返されるのではないだろうか。 (P.九里)





### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「3月号」製本日

2月28日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171